

アクティブラーニングと特別活動 ～主体的・対話的で深い学び～

辻 真 実

1 テーマについての考察

昨年度末から、世界中で新型コロナウイルスが蔓延し、予測のできない事態となりました。「新しい学校生活様式」が取り入れられ、今までとは違う学校生活が展開されました。常に変化のある生活において、変化に対応できている子供もいれば、そうではない子供もいます。そのような実態から、今後の変化の激しい時代に対応していくためには、子供たちが自ら課題を発見し、その課題解決に向かって主体的・対話的に取り組むことや、学びを今後の生活にいかしていく、「主体的・対話的で深い学び」が重要であることを日々強く感じました。また、昨年度まで当たり前だったことが、本当は当たり前ではなかったと感じたことがたくさんありました。しかし、このような事態だからこそ新しいことを行うチャンスにもなりました。特に今年度は、感染症予防のために学年を超えての交流が難しかったため、その分、学級の友達とのつながりや学級での学び、個人での学びを濃くしたいと感じました。そのために行った特別活動を通じた主体的・対話的な深い学びに向けての実践を紹介したいと思います。

2 具体的な取組

(1) どうぞよろしくの会

今年度、1年生の担任をしています。今年度は入学式が6月に行われ、それまでは子供たちが全員で顔を合わせることができませんでした。そこで入学してすぐに、子供たちがお互いのことを知れるように、「どうぞよろしくの会」をすぐに開きました。感染症予防に留意して、距離をとり、お互いの名前や好きなものを紹介しました。また、みんなで決めた密にならないゲームを行い、みんなで活動することの楽しさを体験しました。みんなで決めたことをみんなで実践することを通して、学級会についても学びました。



その他に、年間を通して、「七夕まつり」をしよう、「1学期がんばったね会」をしよう、「2学期がんばろうね会」をしよう、「ゆい先生(教育実習生)ありがとう会」をしよう、「お月見パーティー」をしよう、「新しい係を

決めよう」,「1年間ありがとう会」をしようなどの実践を行いました。自分たちで決めたことを自分たちで創り上げていく活動を通して,主体的・対話的で深い学びができていたように思います。コロナ禍の中でも,子供たちにとって楽しく,安心して過ごせる居場所となる学級にするために,学級会が重要な役割を担っていることも感じました。

(2) 生活科の学びと関連した新しい校外学習

今年度は,感染症予防のため,従来行っていたバスや公共交通機関を利用した校外学習ができなくなりました。そこで新しい行き先を決めることとなったのですが,その際,子供たちが主体的に学ぶ「何か」がある場所にしたいと考えました。そこで,子供たちが大好きな生活科の学びと関連した校外学習にすることにしました。目的は以下の通りにしました。

- ・生活科学習の一環として,秋の様子を観察することにより,自然や生き物への関心を高める。
- ・校外での活動を通して,集団行動の仕方を学び,お互いの親睦を深める。
- ・公共施設でのマナーを知る。

夏休みに市内中の公園を周り,学習に最適な公園を選びました。計画,実践も子供たちの意見を取り入れながら考えていきました。コロナ禍だからこそ子供たちのことを考え,子供たちと一緒に創り上げた校外学習になったと感じます。同じ環境下でも,子供の実態に応じて,常に新しいものを創りだしていく重要性を感じました。

(3) よりよい家庭学習

学校での学びが家庭での学びにも繋がるように1年生の段階から家庭学習についての取組を行いました。

活動内容

【課題設定】

- ・よりよい家庭学習について知ろう。

【ステージ1】

- ・実態アンケートを取る。

【ステージ2】

- ・学級活動(3)の授業を行った。

① アンケートをもとに,自分やクラスの実態を知り,原因を探る。

② 家庭学習(宿題,自学)について知る。

③ 課題をもとに,よりよい家庭学習について話し合う。

④ 自分のめあてを決める。

【ステージ3】

- ・週に1回、自学を行い家庭学習の充実を図る。

【ステージ4】

- ・1か月間を振り返り、継続して取り組む。

【発信・振り返り・実践】

- ・家庭学習の内容を相互に見合う。(発信)
- ・よりよい家庭学習を行っている子を紹介する。(発信)
- ・「自学チャンピオン」を決めて、掲示する。(発信)
- ・ノートに振り返りの欄を設定し、毎回自分の家庭学習について振り返ることができるようにした。(振り返り)

【児童の変容】

- ・自分自身でめあてを設定し、計画的に行動できるようになった。
- ・自分の興味のあることに対して、関心・意欲を深めることができた。
- ・家庭学習に意欲的に取り組めることができるようになった。
- ・興味関心の幅が広がった。
- ・書く力が育った。
- ・普通の授業での学びを、家庭学習に繋げることができた。

3 成果と課題

児童の感想から、成果と課題を検証しました。児童の感想としては、「最初はみんなの意見がばらばらだったけど、学級会を重ねるごとにみんなの意見がまとまっていった。自分たちでできることも増えていった。」「自学が楽しい。学校で勉強したことをもっと工夫して家でもやってみた。」などの感想がたくさんありました。自分の成長や学ぶ楽しさを感じることができ、学校での学びを家庭や地域での学びにつなげることができたことが成果です。課題は、もっと子供たちに疑問をもたせられる活動にしていくことです。子供たちの考えを取り入れるだけでなく、疑問から学びにつなげていけるようにしていきたいです。

4 新たな教育に向けて

今年度、コロナの影響により、当たり前前が当たり前ではないことに気付かされました。しかし反対に、本当に必要なものや新たな考えも生まれました。主体的・対話的で深い学びの実現のためには、子供たちを取り巻く環境や子供たちの実態に応じて、常に新しい視点をもって指導にあたることが大切であることを感じました。また、小学1年生であっても、教師がルールをひくのではなく、子供たちの思いや考えを取り入れながら活動や授業を創り上げていくことで、主体的・対話的で深い学びにつながることを感じました。今後も変化に対応しながら常に柔軟に考えていける教師でありたいと思います。